

第2期第5回（平成24年度第1回）帯広市産業振興会議 議事録要旨

平成24年6月11日（月）15：00～

帯広市役所10階第6会議室

I. 会長あいさつ

II. 報告

1. 帯広市中心市街地活性化基本計画について

事務局より、資料に基づき、帯広市中心市街地活性化基本計画について説明があった。

（委員）

第1期計画で補助金を受けたものはあったのか。また、第2期で、開広団地等について補助の予定はあるか。

（事務局）

第1期では広小路再整備について国庫補助をいただいた。第2期も、開広団地には補助を導入する考え。

（委員）

藤丸8階の市民活動交流センターの活用状況はどうなっているか。

（事務局）

年間3万人程度のご利用をいただいている。第2期も継続して取り組みたい。

（委員）

指標である活動拠点施設の利用率に、市民活動交流センターの状況は含まれているか。

（事務局）

含まれている。他に、市役所本庁舎1階市民ホール、帯広市図書館、とかちプラザなど6か所がある。

（委員）

第2期計画について、西2条や広小路に重点化するような議論はあるか。

（事務局）

重点化という議論は特にないが、西2条や広小路が取組みの中心になると考えている。

（事務局）

市議会産業経済委員会への提出案件については、今後、当協議会にもできるだけお知らせし、ご意見等をいただく考え。

（委員）

中活計画は当協議会では議論しないという整理だったが、今後報告いただくのはよいことだと思う。

広小路の活用方法について、例えば軽トラ市など、祭り以外に通行止めを含めた有効な活用方を検討してはどうか。できれば、意見として中活協議会に伝えてほしい。

（事務局）

産業振興会議から意見があったことについて、当方から伝えていく。

(委員)

とかちむらについても、当協議会では議論しないと整理されていた。2件とも、それだけで協議の時間を使ってしまうほどの大きな案件であり、報告も簡単にしないと本題の協議時間を十分確保できない。

(委員)

報告いただいても、どう議論するか難しい。ここでしっかり議論すべきなのか。

(事務局)

議会から、こうした産業経済に関する重要な案件については産業振興会議にもきちんと知らせるべきとのご指摘をいただいております。今後も報告していきたいが、当協議会として必要がなければ、資料配布のみとさせていただきます。

(委員)

この件については、正副会長において取扱いを整理する。

2. とかちむら営業実績について

事務局より、資料に基づきとかちむら営業実績について説明があった。質疑はなかった。

Ⅲ. 協議

1. 提言事業について

事務局より、資料に基づき、前回までの論議の概要と、今後の進め方について説明があった。

(委員)

深掘りするテーマについて、評点の高さは一つの参考になると思う。評点が3.7だった「企業立地促進条例の見直し」はどうか。

(委員)

重要という評価だった項目であっても、どういう議論ができるか整理が必要。

(委員)

当協議会としては、産業集積の具体的な方法などがよいのでは。

(委員)

「フードバレーとかち」は、シリコンバレーのイメージに由来しているものと思うが、シリコンバレーは面積が広く、周辺市町村を含めた集積となっている。また、ドイツでは、部品等の中小企業が周辺に集積しているため、メーカーは自前の工場を持たず周辺企業のコーディネートに特化しているケースがある。

例えば、十勝管内に農業機械や食品関係機械についてどのような技術があり、何を作ることができて、どのようなメリットがあるのか等を整理し、情報発信やネットワーク化をすすめる、といった方策について議論できるのではないか。

(委員)

競争力を高めるには、単に集積すれば良いということではなく、企業間の緊張関係や切磋琢磨が必要。十勝にも一定の集積はあるが、企業間の横のつながりや切磋琢磨がどの程度あるのかを見ていけば、競争力が伸びていくきっかけになるというご指摘かと思う。

(委員)

固定資産税の減免も大切だが、十勝ならこういう原料や部品がそろっていて、一貫して支援できるということを見せるのも大切だと思う。

(委員)

産業振興ビジョンの原点に立ち返れば、「中小企業のため」という視点と、「域内」という視点は重要だと思う。例えば、テーマ1、2、5などは、この両方の視点が含まれるし、当協議会には観光分野で活躍中の委員もいる。地元の中小企業が元気でないと、外から人を呼び込めない。どう地元の中小企業を支援できるかが大切。

(委員)

4回議論して提言するとなると、日程的に厳しいので、細かい事業より大テーマで議論した方がよい。

(委員)

テーマ1、2、5あたりがよいと思う。特にテーマ2は、人材育成と、優秀な人材のUターンの両面あると思うが、こういったことにもスポットをあててほしい。

(委員)

民間の意見がほしい分野を、行政から提示してもらった方がよいのではないか。例えば、フードバレーとかちの推進とか、交流人口の増加方策とか、あるいは、集客交流産業はどちらかという「消費」的な側面が強いので、もっと「生産」的な側面を扱ってほしいとか。

(委員)

資料に記載されている論点例は、そうした行政側のニーズも含まれていると思う。

(事務局)

今回の議論は、来年度以降、施策にどう反映するかを意図して、中小企業者のニーズをお聞きしたいというのが主眼。また、委員が議論できるテーマだとありがたい。

(委員)

テーマ1と5は「消費」的で、お金をどう遣っていただくかということ。テーマ2と3は中期的な視点でものづくりにどう取り組むかというもの。

テーマ1と5は、今後一つになっていくと思う。例えば、LCCは道内にいかにアジアからの観光客を呼び込むかで躍起になっており、十勝でも今後課題になってくると思われるが、その際、商店街にバスで乗り付けるようなことも視野に入れなければならない。

(事務局)

産業振興ビジョンはものづくりに偏っているという印象があるかもしれないが、中小企業の振興に資するものなら、他のテーマでもよい。

(委員)

ものづくりに取り組んでいて課題だと感じるのは、販売のノウハウがないことや、6次産業化の取組みを採算ベースにしていくこと。連携強化と人材育成が大切。

(委員)

中小企業が自分ではできないことを行政に求めたい。人材育成や情報などは、中小企業者も自ら取り組んでいるが、産業基盤や経営基盤の強化はなかなか難しい。テーマ1や4を扱ってほしい。

また、テーマ5は様々なアイデアがあり得る分野だと思うので、特定の事業に絞り込まず、全体を幅広く議論した方がよいのではないか。

(委員)

人材育成は各企業が当然取り組むべきこと。ここで扱うテーマとしては、企業立地や企業誘致について議論したい。

(委員)

各委員がやりたいこと、得意分野を議論することでよいと思う。自分としてはテーマ5と、産業基盤について。

(委員)

5つの柱を大きく2つに分けて議論してはどうか。

(委員)

時間が限られているので、できれば具体的なテーマ2つに絞らんだ方がよい。

(委員)

幅広いテーマの方が論議しやすい。他の施策の柱に関係する場合もある。議論する中で絞り込んではどうか。

(委員)

大きく2つに分けるとすれば、「人づくり・ものづくり」ということで、作る、育てることを一つ、産業基盤強化や消費的な取組みを一つ、という方法も考えられる。

(委員)

議論の進め方として、グループを分けて特定テーマに特化して議論するのか、両方参加してもよいのか、どちらをイメージしているか。

(事務局)

1日の中で時間帯を分けて2つのテーマを論議し、自分の所属しないテーマでもフリーに参加できるようにするイメージ。

いずれにしても、具体的にどのような論点について議論するか、グループ討議の冒頭で整理することが必要だと思う。

(委員)

具体の論点については、ある程度事前に整理することが必要かもしれない。

(委員)

各グループに任せていただければどうか。

(事務局)

ファシリテーターを有識者にお願いする関係もあり、アウトラインだけでも事前に調整したい。

(委員)

「人づくり・ものづくり」(テーマ2、3、4)と、消費的なもの(テーマ1、5)の2つでよいのでは。具体の論点は各グループで整理。

(事務局)

論点案については、正副会長と一定程度整理して、予め各委員に連絡する。

※以下のとおり、グループ分けを行った（会長は両グループに参加）。

○テーマ 2、3、4・・・谷脇副会長、小倉委員、河西委員、中田委員、原口委員

○テーマ 1、5・・・中谷副会長、兼子委員、後藤委員、志子田委員、眞鍋委員

IV. その他

事務局から、「住宅リフォーム助成制度」及び「フードバレーとかち人材育成事業」について紹介等があった。

V. 閉会